

令和2年度事業報告

はじめに

令和2年度は、京極高宣会長、升田忠昭理事長をはじめとする16名の理事、2名の監事による体制で承認された事業計画に則り事業を実施しました。

国による緊急事態宣言から始まった令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない歴史的パンデミックにあって、スピードとチャレンジ精神が求められる異例な年となりました。公益事業、収益事業ともに感染予防に努め、オンライン等の新たな技術を学び、事業に活用していった意義深い一年でした。

また、緊急事態宣言に伴い千葉県指定管理事業では休館となり、自治体からの委託事業の一部は中止となりました。国からは出勤者7割減の要請などが相次ぎ、休業手当やテレワークの必要性が出現、結果、雇用調整助成金等を申請、東京都新型コロナウイルス感染症対策雇用環境整備促進奨励金によって職員就業規則等の改定を行い、コロナ禍における事業継続に努めました。

新型コロナの影響は、WACポイント活動にも及び、休止や縮小を余儀なくされ、廃止に至ったポイントもありました。WACポイント支援金を見直して緊急支援金を行った結果、例年の2倍の10ポイントから応募がありましたが、会員とポイントの減少は止まりませんでした。

総会・理事会の開催

令和2年度定時総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面決議方式で執り行いました。例年、実施している会員交流会は開催を見送りました。

日時 令和2年6月25日（議決権行使書等）出席69名

令和2年度理事会は、定款に基づき以下の通り5回、全てZoomによるオンライン会議で実施しました。

| 回 | 日程 | 主な議題 |
|---|-----------|---|
| 1 | 令和2年6月8日 | 令和2年度定時総会議案 |
| 2 | 〃 7月28日 | 令和2年度第1四半期各事業報告 |
| 3 | 〃 10月22日 | 令和2年度第2四半期各事業報告 |
| 4 | 令和3年1月28日 | 令和2年度第3四半期各事業報告、職員就業規則等改定 |
| 5 | 〃 3月26日 | 令和2年度第4四半期各事業報告 令和3年度事業計画、内閣府報告事項（令和3年度事業計画） |

会員の動向に関して

《個人会員》

令和3年3月末会員数は、個人会員935名（正会員128名、賛助会員602名、配偶者会員204名）となり、前年度より106名減少しました。会員の減少傾向は続いています。

| | 会費納入 | | | 会費未納 | | | 合計 | | |
|-------|------|------|-----|------|------|-----|-----|-------|-------|
| | 3月末 | 前年同月 | 前々年 | 3月末 | 前年同月 | 前々年 | 3月末 | 前年同月 | 前々年 |
| 正会員 | 101 | 116 | 93 | 27 | 20 | 42 | 128 | 136 | 135 |
| 賛助会員 | 402 | 474 | 480 | 200 | 200 | 285 | 602 | 674 | 765 |
| 配偶者会員 | | | | | | | 204 | 230 | 250 |
| 合計 | 503 | 590 | 573 | 227 | 220 | 327 | 935 | 1,040 | 1,150 |

| | 会費納入会員 | | | | | | 会費滞納会員 | | | | 配偶者 会員 |
|-----|--------|-----|------|-----|-----|---------|---------|----------|-----|---------|-----------|
| | 正会員 | | 賛助会員 | | 合計 | 前年 比 | 正会 員 | 賛助 会員 | 合計 | 前年 比 | |
| | 人数 | 前年比 | 人数 | 前年比 | | | | | | | |
| 北海道 | 1 | -1 | 14 | 0 | 15 | -1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 8 |
| 東北 | 4 | -1 | 42 | -3 | 46 | -4 | 3 | 19 | 22 | -2 | 19 |
| 関東 | 76 | -9 | 154 | -41 | 230 | -50 | 17 | 105 | 122 | 14 | 106 |
| 信越 | 2 | 0 | 8 | -3 | 10 | -3 | 0 | 6 | 6 | -2 | 4 |
| 中部 | 4 | -1 | 55 | -10 | 59 | -11 | 1 | 31 | 32 | 9 | 26 |
| 近畿 | 7 | -2 | 34 | -1 | 41 | -3 | 3 | 10 | 13 | -3 | 14 |
| 中国 | 4 | 0 | 61 | -10 | 65 | -10 | 0 | 4 | 4 | -5 | 18 |
| 四国 | 1 | 0 | 7 | -2 | 8 | -2 | 0 | 7 | 7 | -5 | 2 |
| 九州 | 2 | -1 | 27 | -2 | 29 | -3 | 2 | 18 | 20 | 1 | 7 |
| 合計 | 101 | -15 | 402 | -72 | 503 | -87 | 27 | 200 | 227 | 7 | 204 |

《法人会員》

法人会員は、1社が退会、入会はなく合計16社（法人賛助会員11社、団体賛助会員5社）で昨年度17社から1社減少しました。尚、団体賛助会員は、「会員及び会費等に関する規程」の改定（平成29年5月24日）に伴い、現在、新規募集を行っていません。

| | |
|----------|---|
| 法人 賛助 | 久光製薬(株)、トッパン・フォームズ株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、 (一社)日本青少年育成協会、(一財)高齢者住宅財団、(一社)日本健康麻将協会、 NPO法人東京山の手まごころサービス、NPO法人ウェアラブル環境情報ネット推進機構、 NPO法人SSSネットワーク、YKK AP(株)、(一社)日本産業カウンセラー協会 |
| 団体 賛助 | NPO法人日本心身機能活性療法指導士会、東友会関東支部、NPO法人りすシステム、 (公財)さわやか福祉財団、さをりひろば |

事業に関して

令和2年度は、令和2年度事業計画に則り、公益事業および収益事業を以下の通り実施しました。

今年度決算は、新型コロナウイルス感染症の影響で、事業収入が前年度より1,790万円減少しましたが、雇用調整助成金等の給付金（総額478万円）があり、収入額は前年度比1,370万円減となりました。支出費用は指定管理事業等の新型コロナウイルスによる一部事業縮小等で前年度比2,138万円の減少となりました。結果、1,331万円の黒字決算となりました。

(単位=千円)

| 収入 | 支出 | 収支 |
|---------|---------|--------|
| 186,676 | 173,356 | 13,319 |

【公益事業報告】

〔公1事業〕

《高齢者福祉増進・啓発事業》

○高齢者の福祉・健康・いきがづくり等支援事業 (千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理)

千葉県福祉ふれあいプラザの指定管理者として法令を遵守し、承認された事業計画に基づき、NPO法人ACOBAとの共同事業体で運営しました。

令和2年度は、第四期指定管理（平成31年4月1日～令和3年3月31日）の中間年度でしたが、新型コロナウイルスによって、東日本大震災以来の休館を強いられる困難な一年となりました。しかし、オンライン研修の開始、介護予防トレーニングセンターの完全予約制など新たな試みに挑戦、コロナ禍での公共施設の役割を模索して実行した意義ある一年となりました。

・緊急事態宣言と休館

年度開始の4月1日は、2月末から続く休館中であり、さらに緊急事態宣言が発令され、開館は6月2日からでした。感染拡大防止に努め、定員5割削減、夜間休館で対応、令和3年1月に第2回緊急事態宣言が出され、年度末まで定員を戻すことは叶いませんでした。よって、利用者数、利用料は大幅減となりました。

・介護実習センター

県民研修のうち一般県民研修は49講座、専門職研修は34講座、合計83講座2,814人が受講しました。内、オンライン研修は15回1,156人に上り、半数弱がオンライン受講生です。

・介護予防トレーニングセンター

登録累計者数839人で昨年度末より200人減、年間利用者数は19,268人で昨年度比50%でした。介護予防講習は年間280回行い、昨年度より2,500人以上多い9,249人が受講しました。

・ふれあいホール

年間利用者数は31,617人で、昨年度より8万7千人以上減少しました。ホールの文化利用は合唱やカラオケなどのサークル発表会、文化祭など、高齢者中心に利用されていたため、感染予防のため開催中止が相次ぎました。スポーツ利用の社交ダンス、バンケットボールなどソーシャルディスタンスが取りにくい種目は利用不可としたため、利用の減少に拍車をかけました。

*新型コロナウイルスの影響により県と相談のうえ9月に年度計画を修正

| | R2 年度計画予算 | R2 年度実績 | R1 年度実績 |
|-----------|------------|------------|------------|
| 総利用者数 (人) | 70,000 | 63,606 | 188,252 |
| 利用料収入 (円) | 12,190,000 | 11,422,050 | 24,723,980 |
| 収支 (円) | 0 | 2,112,824 | 4,921,298 |

○福祉サービスの質の向上事業

(福祉サービス第三者評価事業)

WAC の福祉サービス第三者事業は、東京都から第三者評価者機関としての認証を受けて実施しています。評価した内容は東京都から公表されます。

東京都は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、評価方法の特例を順次発表しました。評価機関である WAC は、評価者の健康維持対策、特例である新しい評価方法の周知と検証を行い、オンラインによる利用者調査やメールによる訪問調査など、事業者と相談のうえ実施しました。オンラインに不慣れな評価者には事務局が事前研修を行い支援しました。

コロナ禍において、高齢者や障害者、保育園等の第三者評価を行うことは、感染リスクはもとより、施設や職員、利用者にとっても非常時であり、制限される家族面会、感染予防対策など職員の負担増などコロナ禍の福祉サービスの困難な状況が伺える機会となり、結果、第三者評価事業の社会的な意義を新たにするものでした。

・実績

令和2年度は、収入予算 12,000 千円に対して、収入実績は 18,706 千円でした。

第三者評価、利用者に対する調査を行った事業者数は 53 件 (評価 43 件、利用者に対する調査 10 件) に上り、契約先の内訳は、自治体 (荒川区、品川区、目黒区、台東区) 30 件、民間 23 件と、年間 50 件以上の実績は 4 年連続となりました。

サービス事業の種別内訳は、**高齢者福祉 27 件** (特別養護老人ホーム、ショートステイ、通所介護、認知症高齢者 GH、居宅介護支援)、**障害者福祉 21 件** (障害者支援施設、ショートステイ、障害者生活介護、障害者 GH、就労継続支援 B 型、精神障害者生活支援)、**子ども家庭福祉 5 件** (保育園、母子生活支援) でした。特に、令和元年度 10 件であった障害者福祉が 21 件と倍増、WAC 第三者評価は、多様なサービス種別に対応できる評価機関として成長しつつあります。

(単位=千円)

| 収入実績 | 支出実績 | 収支実績 |
|--------|--------|-------|
| 18,706 | 17,632 | 1,074 |

○長寿社会の啓発事業

(「ふれあいねっと (会員向け情報誌)」の発行)

「ふれあいねっと」280 号 (発行日 11 月 10 日)、「ふれあいねっと瓦版」281 号 (発行日 3 月 30 日) を各 1,500 部発行し、会員及び関係各所に配布しました。

| | 主な内容 |
|-----------------|----------------------------------|
| ふれあいねっと 280 号 | With コロナ時代特集、定時総会報告、WAC ポイント活動一覧 |
| ふれあいねっと瓦版 281 号 | コロナ禍、医療特集 |

(単位=千円)

| 収入実績 | 支出実績 | 収支実績 |
|------|-------|--------|
| 0 | 1,755 | -1,755 |

〔公2事業〕

≪高齢者の雇用・就労支援事業≫

〔「みたと*しごと55」港区アクティブシニア就業支援センター〕

令和2年度は、一年を通してコロナの影響を受け、対策を講じながらシニア就職支援に努めました。「みたと*しごと55」は東京都及び港区からの委託業務（シニアの無料職業紹介事業）です。一人でも多くの求職者が希望する就職を実現できるよう、安心して相談に訪れることができる環境づくりを行いました。

相談業務は、専門カウンセラー（及びそれに準ずる能力を有する者）が対応し、求職者自身の働き方・職業の選択などについて幅広く相談に乗りアドバイスします。求職者等の達成目標数には届かなかったが、都内12アクティブシニア就業支援センターで第3位の就職者数を上げ、存在感を示すことができました。

- ①コロナ対策を十分にしたうえで、港区アクティブシニアセンター独自の合同面接会、再就職支援セミナーを年4回開催。シニア求職者の就職支援を進め就職に結び付けました。
- ②港区や東京都内のシルバー人材センター、社会福祉協議会、産業の振興等に関わる高齢者雇用促進団体、民間の人材会社などと連携をとり、シニアの就職に繋げました。
- ③東京都主催のシニア就職キャラバンへ参加しました。港区シルバー人材センターやハローワーク品川などにおいて、出張登録会や出張相談会等にも、コロナ対策を講じて取り組みました。

令和2年度事業補助金収支報告

(単位：円)

| 区分 | 総事業費(補助対象額) | 区補助金交付額 | 返還額(交付額-補助対象額) | |
|-----|-------------|------------|----------------|-----------|
| 運営費 | 人件費 | 18,116,540 | 18,165,000 | 48,460 |
| | 事業費 | 3,937,413 | 6,645,000 | 2,707,587 |
| | 計 | 22,053,953 | 24,810,000 | 2,756,047 |

令和2年度事業実績報告

| | 目標 | 実績 | 達成率 |
|------------|-------|-------|--------|
| 求職者数 | 2,200 | 1,186 | 53.9% |
| 求人開拓件数 | 1,900 | 1,596 | 84.0% |
| 求人開拓件数延べ人数 | 3,500 | 3,553 | 101.5% |
| 就職者数 | 240 | 129 | 53.6% |

〔公3事業〕

《地域の相互扶助機能活性化事業》

（コミュニティカフェ）

令和2年度は、コミュニティカフェ講座を昨年度実績があった府中市に加え、埼玉県でも実施、事業を拡大しました。また、新型コロナウイルスのため昨年度中止となった全国交流会は、オンラインで開催し、80名の参加を得ました。これまで培ってきたネットワークが実を結んでいます。

- ・千葉県福祉ふれあいプラザ一般県民対象研修出張研修（コミュニティカフェ講座）を開催

9月5日（土）～11月22日（日）全10回

- ・埼玉県コミュニティカフェ研修（さいたま未来大学）を開催

10月24日（土）～2月27日（土）全16回

- ・府中市市民活動センタープラッツ協働でコミュニティカフェ開設連続講座「人が集まる居場所のつくり方」を開催

1月10日（日）～3月7日（日）全8回 定員25名

- ・府中市共催全国コミュニティカフェ交流会を開催

3月21日（日）

（単位=千円）

| 収入実績 | 支出実績 | 収支実績 |
|-------|-------|------|
| 1,907 | 1,934 | -27 |

【収益事業報告】

〔収1事業〕

《高齢者福祉関係人材育成事業》

・生涯現役社会推進事業

東京しごと財団より委託を受け、平成30年度、令和元年度、2年度と継続して実施してきました。

新型コロナウイルスの影響により、定員を従来の半数以下に設定し、ソーシャルディスタンスの確保、入場時の検温、手指消毒、室内の換気等コロナ禍のセミナー実施にあたり、対策を十分に取り都内60ヶ所にて開催しました。

55歳以上の方で就職活動を始めたい、就職活動中の方を対象にシニア世代のライフプランと再就職の現状と考え方を学ぶセミナーを運営し、セミナー動画作成も行いました。結果として年間合計参加者数1,221名となり、コロナ禍においても多くの方に参加頂きました。

・生活支援サービス研修

東京しごと財団より、平成27年度から受託しているシルバー人材センタースタッフ向けの生活支援サービス研修は、年間6回の予定でしたが、5月開催分が中止となり、年5回開催しました。

コロナ禍で定員には満たない参加者数でしたが、お互い助け合う気持ちから参加された方や、シルバー人材センターに登録したばかりで、これから活動をしていく方など様々な方が受講されました。

感染予防のため車いすや高齢者疑似体験の実習は、アルコール消毒等の対策を行い、人体模型を使用する上級救命講習は人数制限の上、実習機材は一人1台で行いました。

・八王子市 福祉のしごと就職フェア事業

八王子市より委託を受け、コロナ禍の中、市内の福祉施設への就労を希望者と市内介護サービス事業所及び障害者福祉事業所との就職相談会を年間2回実施・運営しました。

新型コロナウイルス感染予防の観点から、参加事業所との相談は Zoom を利用したオンライン面談とし、来場者は会場内に設置された PC にて出展事業所の PR 動画や求人票等のパンフレットを閲覧し、興味を持った事業所の担当者と Zoom でのオンライン個別面談を行いました。

会場 : 八王子市学園都市センター

実施日 : 第1回 10月25日(日) 第2回 2月24日(水)

来場者数 : 第1回 34名、第2回 50名

出展事業所数 : 第1回、第2回ともに 19事業所

・江東区高齢者家族介護教室

高齢者の家族を介護している、介護の勉強をしたいという区民対象に、全8回の研修を行いました。内容は、感染予防、認知症、高齢者の薬の飲み方などで、定員は当初は50名でしたが、感染予防のため30名に減らしました。毎回定員を上回る人数の申し込みがありました。研修に8回連続で参加された方、奥さんを介護している93歳の男性、お父さんやお母さんの介護している若い世代も多数参加されました。会場は区役所隣接の文化センターが中心で、東大島や亀戸などの区施設でも開催しました。

・東久留米市入門的研修&おしごと相談会

東久留米市からの委託事業での介護の入門的研修を年2回開催しました。

入門的研修は、介護にかかわったことがない方が、介護の基本的な知識や技術を身につけ、家庭や地域で介護の担い手として、住み慣れた地域で高齢者が暮らしていける体制をつくるために、2018年(平成30年)度から全国で導入された研修です。

東久留米市民対象で介護事業所への就労やボランティアなどを考えている方を対象に7日間の研修。1日の研修時間を短くし、受講の負担を減らしました。

10月と1月の開講で、42名が受講し、3名が市内の介護事業所に就職しました。

(単位=千円)

| 収入実績 | 支出実績 | 収支実績 |
|--------|--------|-------|
| 34,964 | 33,408 | 1,556 |

〔収2事業〕

《高齢者・認知症疑似体験事業》

・高齢者疑似体験

感染症対策ガイドラインをホームページで公表しました。消毒の観点から、洗濯不可であった部品の一部を洗える部品へ見直し、その他、衛生管理を重視した商品開発に取り組みました。

新型コロナウイルスの影響で台東区など開催を見送る大変厳しい事態となり、貸出の実施件数は3件に留まりました。

販売については1月から3月にかけて全国の社会福祉協議会から17件の注文が入り、売上を伸ばすことができました。

・ **認知症疑似体験**

認知症疑似体験は、研修は 3 件(杏林大学、神奈川県立衛生看護専門学校、望星薬局)実施しました。杏林大学では 100 名の学生対象に学内 3 つの会場を使用してのオンライン研修となりました。望星薬局は 20 名の新人社員の方々に対して新型コロナウイルス対策を行いつつ、高齢者疑似体験と認知症疑似体験を提供しました。

販売については成約 3 件、インストラクター研修は購入先に対して実施しました。

認知症疑似体験のヘッドマウンドディスプレイが廃番となり、今後の販売について検討が必要です。

・ **インストラクター養成研修**

インストラクター養成研修は、新型コロナウイルスの影響で対面での研修は見送り、Zoom を利用したオンライン研修として実施しました。

高齢者疑似体験インストラクター研修は、10 月 1, 2 日に初のオンライン研修を、3 月 11 日に第 2 回目を行い、合計 24 名の参加がありました。従来の研修内容をオンライン研修向けに見直し簡素化して、10 月は半日×2 日、3 月は 1 日で研修プログラムを組みました。

認知症疑似体験インストラクター研修は、2 月 5 日に初のオンライン研修を、3 月 23 日に第 2 回目を行い、合計 8 名の参加がありました。従来の研修内容を見直し、今後もコロナ禍の状況が続くことが予想されるため、引き続きオンラインで高齢者疑似体験を年間 4 回、認知症疑似体験は随時実施する予定です。

| インストラクター養成研修 | 回数 | 人数 |
|--------------|----|----|
| 高齢者疑似体験 | 2 | 24 |
| 認知症疑似体験 | 2 | 8 |

(単位=千円)

| 収入実績 | 支出実績 | 収支実績 |
|--------|-------|-------|
| 13,237 | 4,503 | 8,734 |

【収 3 事業】

《介護予防事業》(品川区委託事業)

・ **男の手料理教室、地域活動連携型介護予防事業(わくわくクッキング)、外出習慣化事業(食事処)**

高齢者の介護予防事業として、品川区から平成 15 年より委託を受け 17 年目となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響で事業は一年間中止になってしまいました。

WACポイントの「WACさしすせそ」と協同して運営しています。

(単位=千円)

| 収入実績 | 支出実績 | 収支実績 |
|------|------|------|
| 205 | 705 | -500 |